

平成 30 年度「学校評価」について

1992 年（平成 4 年）、北海道深川市にクラーク記念国際高等学校が開校してから四半世紀を迎え、現在は全国で約 11,000 人を超える生徒が学んでいます。開校以来「一人ひとりの才能を開花させる教育」を目指し、生徒が安心して通える学校、自分の「好き」や「得意」を伸ばす多彩なカリキュラムが本校の特色となっています。

さて、平成 30 年度の「学校評価」を実施するに当たり、「6 つの部会（校務分掌）」より担当者を選出し、学校評価委員会を設置の上、自己評価を実施することにしました。この 6 つの部会は、「教務」、「進路」、「生活指導」、「国際推進」、「広報」、「総務」からなり、各キャンパスに配置された、各部会の教職員は、それぞれの部会の課題解決に取り組むための資料や情報収集、会議や研修会の開催を通じて共通理解を図り、キャンパスの枠を超えた業務改善に取り組んでいます。

そこで今回は、各部会が所管する各種アンケート、いじめ調査、進路状況などの多岐に亘る関係資料を集約、分析した結果に基づいて自己評価を実施しました。

また、近年、多様化する通信制高校の教育の「質」が問われる中、本校は平成 28 年 1 月から 1 年 4 か月に亘り、学校教育や教育行政に精通した有識者の方々に構成した「教育の質向上委員会」を設置し、専門家からの助言を取り入れ、学校運営、教育活動の改善に努めてまいりました。

更に本年度には、「通信制高等学校評価研究会」の第三者評価（試行）を受審し、すべての評価項目に対して適正であると評価していただくことができました。

これからもクラーク記念国際高等学校の原点である、生徒一人ひとりを大切にせる教育を学校経営の根幹に据え、皆さまからますます期待される学校を目指し、教育活動の更なる改善、向上に努めていく所存です。

クラーク記念国際高等学校
校長 三浦 雄一郎